

作成日 2013年 12月 3日

改訂日 2016年 3月 9日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 エコハート S Libra NEWにおわなインキ シリーズ
 会社名 都インキ株式会社
 住所 大阪府大阪市鶴見区放出東 1-7-13
 担当部門 技術課
 担当者 中田 敦嗣
 電話番号 06-6961-0101
 FAX 番号 06-6961-0303
 メールアドレス gijutu_nakata@miyakoink.co.jp
 緊急連絡先 同上
 整理番号 I-30-01

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性
 健康有害性

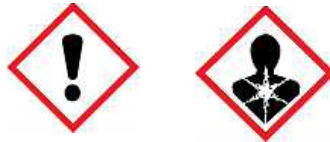
皮膚感作性 区分 1
 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露） 区分 1（肺、吸入）
 吸引性呼吸器有害性 区分 1

環境有害性

上記で記載のないものは分類できない／分類対象外／区分外

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応をおこすおそれ（H317）
 長期または反復暴露による臓器（肺、皮膚）の障害（H372）
 飲み込み気道に侵入すると生命に危険のおそれ（H304）

注意書き

安全対策

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入をしないこと。（P260）
 取り扱い後は良く手を洗うこと。（P264）
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。（P270）
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。（P272）
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。（P280）

応急措置

特別な処置が必要である。（この MSDS の注意書きを見よ）（P321）
 気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること（P314）
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。（P302+P352）
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。（P333+P313）
 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。（P301+P310）
 無理に吐かせないこと（P331）
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること（P362+P364）

保管

施錠して保管すること。（P405）

廃棄

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。
(P501)

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

一般名：オフセット枚葉インキ

成分及び含有量

化学名	該当するインキ	含有量 (%)	化学式	官報公示No. (化審法)	CAS No.
鉱油*	全てのインキ	20~30	—	—	—
銅及びその化合物*	藍インキ	10~20	—	5-3299	147-14-8
カーボンブラック*	墨インキ	10~20	—	非該当	1333-86-4
コバルト及びその化合物※*	全てのインキ	1.0 未満	—	—	—

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) 第 1 種指定化学物質の政令番号

化学名	現行施行令政令番号	改正施行令政令番号	PRTR 法の該当
コバルト及びその化合物	100	132	含有 1 %未満で非該当

※ : 化学物質排出把握管理促進法 第 1 種指定化学物質

* : 労働安全衛生法通知対象物質
毒劇法の該当 : 非該当

4.応急措置

- 吸入した場合 : ミストを吸入した場合は、直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせ、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣服や靴等脱がせ、付着部又は接触部を石鹼水で洗浄し、多量の水で洗い流す。もし、皮膚に炎症を生じた場合には医師の手当てを受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに多量の水で 15 分間以上洗い流し、眼科医の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄させる。直ちに医師の手当てを受ける。

5.火災時の措置

消火剤 : 粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂、霧状の強化液

特定の消火方法

- ・速やかに容器を安全な場所に移す。
- ・移動不可能な場合には容器及び周囲に散水して冷却する。
- ・指定の消火剤を用いて消火する。

消火を行なう者の保護

- ・消火作業の際には必ず保護具を着用し、風下で作業しない。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項

- ・風下の人を退避させる。漏出した場所の周囲にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
- ・作業の際には、必ず保護具を着用し、風下で作業しない。
- ・屋内の場合には、処理が終了するまで十分に換気を行なう。

環境に対する注意事項

- ・濃厚な洗浄廃液が河川に排出しないように注意する。

除去方法

- ・飛散したものは空容器に出来るだけ回収し、そのあとを多量の水で洗い流す。その場合中性洗剤等の分散剤を用いて洗い流す。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

- ・火気に注意し作業場は換気を十分に行なう。取扱いには適切な保護具を着用する。作業衣等に付着した場合はその汚れを落とし、取扱い後は手洗いとうがいを十分に行なう。
- ・この製品を拭き取ったウェス等は、速やかに焼却又は廃棄する。

保管

- ・容器は密栓して換気良好な冷暗所に貯蔵する。
- ・指定数量以上の場合は火災予防条例に従う。

8.曝露防止措置

設備対策：屋内作業時は発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。

許容濃度

化学物質の名称	管理濃度	ACGIH (TWA) (2002 年度版)	日本産業衛生学会 (2002 年度版)
鈹油	—	(オイルミスト) 5mg/m ³	(オイルミスト)3mg/m ³
カーボンブラック	—	3.5mg/m ³	(吸)1-(総)4mg/m ³
コバルト及びその化合物	—	0.02mg as Co/m ³	0.05mg as Co/m ³

(吸)：吸入性粉塵 (総)：総粉塵

保護具：防塵マスク、保護眼鏡、耐油性保護手袋、保護衣、保護長靴等を使用する。

9.物理的及び化学的性質

製品の物理的及び化学的性質

外観

形式：ペースト状

色：顔料等が混合されているので特定できない。

臭い：油臭

pH：該当しない。

融点・凝固点：データなし

沸点・初留点：250℃以上

沸騰範囲：データなし

引火点：132℃以上（開放式）

自然発火温度：データなし

蒸気圧：データなし

蒸気密度：データなし

比重：1.0～1.2（25℃）

溶解性：水に難溶、有機溶剤に可溶

オクタノール/水分配系数：データなし

分解温度：データなし

成分の物理的及び化学的性質

成分の名称	沸点 (℃)	密度 (g/cm ³) (15℃)	水への 溶解性	相対 蒸気密度 (空気=1)	引火点 (COC)	発火点 (℃)	爆発限界 (容量%)	Logpow (オクタノール/ 水分配係数)	出典
鈹油	296～321	0.835	不溶	4～5	162	200～410	1～7	—	1

出典 1：原材料の MSDS

10.安定性及び反応性

安定性・反応性：空気と接触して徐々に酸化重合する。この製品の乾燥皮膜及びこの製品を拭き取ったウエス等は、堆積すると発熱し、発火することがある。

危険有害な分解生成物：燃焼により CO、NO_x 等有害ガスが発生する。

11.有害性情報

製品としての有害性情報：製品としての情報なし

成分の有害性情報 (GHS 分類結果)

成分	急性毒性(経口) mg/kg	急性毒性(経皮) mg/kg	急性毒性(吸入： 気体)mg/kg	急性毒性 (吸入：蒸気)	急性毒性(吸入： 粉塵、ミスト)	皮膚腐食性・ 刺激性	目に対する重篤 な損傷・眼刺激 性
鈹油	区分外	区分外	分類対象外	分類できない	分類できない	区分外	区分外

銅及びその化合物	区分外	分類できない	分類対象外	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
カーボンブラック	区分外	分類できない	分類対象外	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
コバルト及びその化合物	分類できない	分類できない	分類対象外	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

成分	呼吸器感作性 皮膚感作性	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性	特定標的臓器・ 全身毒性 (単回暴露)	特定標的臓器・ 全身毒性 (反復暴露)	吸引性呼吸器 有害性
鈳油	分類できない 区分外	区分外	区分外	区分外	区分外	区分外	区分1
銅及びその化合物	分類できない 区分1	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
カーボンブラック	分類できない	分類できない	区分2※	分類できない	分類できない	区分1 (肺：吸入)	分類できない
コバルト及びその化合物	分類できない	分類できない	区分2	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

※ 印刷インキは IARC3

1 2. 環境影響情報

製品としての環境影響情報

- 生体毒性 : 製品としての情報なし
- 残留性・分解性 : 製品としての情報なし
- 生体蓄積性 : 製品としての情報なし
- 土壤中の移動性 : 製品としての情報なし

成分の環境影響情報 (GHS 分類結果)

成分	水生環境有害性 (急性)	水生環境有害性 (慢性)
鈳油	区分外	区分外
銅及びその化合物	情報なし	情報なし
カーボンブラック	区分外	分類できない
コバルト及びその化合物	分類できない	区分4

1 3. 廃棄上の注意

- ・ドラム缶に入れ、横転しても内容物が外部へ流出しないように密栓する。
- ・焼却する場合は、産業廃棄物処理基準に従って焼却する。
- ・外部委託の場合は、廃油（可燃性）であることを明記し、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

1 4. 輸送上の注意

- 注意事項 : ・容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行なう。
 ・消防法の危険等級Ⅲに準ずる運搬容器に収納して運搬する。
- 国連分類 : 国連分類の定義上、危険物に該当しない。
- 国連番号 : 該当なし。
- 指針番号 : 133

1 5. 適用法令

- ・労働安全衛生法（通知対象物質）
- ・火災予防条例（可燃性固体類）
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・化学物質排出把握管理促進法

16. その他の情報

参考資料

- 1) ACGIH (2006年)
- 2) 日本産業衛生学会 (2006-2007年) <http://joh.med.uoeh-u.ac.jp/oel/index.html>
- 3) ICSC CARD <http://www.nihs.go.jp/ICSC>
- 4) 神奈川県環境研究所データベース <http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp>
- 5) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果データベース
<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/ghsi.html>
- 6) 原材料の MSDS
- 7) 製品安全データシート作成指針 改定2版 (日本化学工業協会) 2006年5月発行
- 8) 製品安全データシート作成資料 改訂3版 JIS Z7250:2005 対応 (印刷インキ工業連合会)
- 9) IARC (vol.1~85)

問合せ先

担当部門	当社 技術課
電話番号	06-6961-0101
FAX 番号	06-6961-0303
メールアドレス	gijutu_nakata@miyakoink.co.jp

-
- * 「安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や、新しい知見により改訂されることがあります。
本製品を取扱う場合は、記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じて下さい。
本データシートは、安全や品質の保証書ではありません。